

Kawadoori

川通地区

にい がたりよう 新方領を歩く

新方領は金沢称名寺文書に見られるように中世から栄えた地域で、奥州街道跡や弁慶伝説があります。また明治時代には、日本最大の新方領耕地整理事業も行われた新方領を歩いてみませんか。



バス時刻のお問合せ

朝日バス
越谷営業所
TEL 048-970-5170



①南平野の稲荷神社

祭神は倉稻魂命^{うかのぬきみこと}で、神社の故事来歴は不明ですが、末社であった天王社と天神社を合祀したと言い伝えられています。



境内には富士塚や庚申塔^{こうしんとう}などがあり、また、神社の南側にある「興農事業完成記念碑」は、新和飛行場(越ヶ谷陸軍飛行場)の滑走路のコンクリート片を利用して造立されました。

②西福寺

真言宗のお寺で、岩平山威徳院西福寺^{あみだぶつ}といい、阿弥陀仏を本尊としています。開山は明暦3年(1657)に没した了俊上人です。



平成25年(2013)には奈良の唐招提寺を模した本堂が落慶しました。内陣の格天井には現住職の手により、国内47都道府県の花などが描かれています。

③弁慶水鏡の池

江戸時代の文人、山崎北華の紀行文『蝶之遊』には「その昔、源義経奥州下向の折、弁慶が姿を映した水鏡の池があり、その傍らに柳の大木があった」と記されています。



大光寺の南側、おっぼり沼の隣の小さな池がその跡だといわれています。

④大光寺

真言宗のお寺で、花林山回向院大光寺といい、阿弥陀如来を本尊としています。文安4年(1447)3月、祐真上人の開山と伝えられます。



また、門前の香取神社境内には句碑や富士塚があります。文明6年(1474)銘の鰐口は、岩槻^{いわつき}の江鑄物師により鑄造されたもので、市指定文化財になっています。

大光寺には源義経が弁慶を従えて奥州に下る途中に立ち寄ったとされ、境内の観音堂に安置される十一面観音像は弁慶が遺したものと伝えられます。

⑤庚申塚

県道野田岩槻線を春日部方面に進むと左手、元荒川の自然堤防に造られた塚の上に、享保5年(1720)から文政11年(1828)までに造立された6基の庚申塔が祀られています。



庚申塚として残っているのは、区内でもここだけといわれています。

⑥大野島の神明神社

祭神は天照大御神^{あまてらすおみ}で、元荒川の自然堤防上に鎮座し、江戸時代には村内の普門院の持ちで、村の鎮守として人々の信仰を集めていました。



境内には道しるべや富士塚などがあります。

⑦奥州街道跡

旧奥州街道は末田地区^{にい}と新方須賀地区^{あたすか}の間で元荒川を渡り、大戸地区から大口、増長地区を経て大光寺へと続く古い道筋です。



奥州藤原氏を頼って下向する源義経主従の伝承がここに残されるのも頷けます。街道跡は増長から大谷地区に至る各所で見られます。大口地区では街道跡を「堤」または「金山堤」と呼び、「堤に近い家ほど古い」と云われています。現在は樹木に覆われていますが、以前は堤が小高く連なっていました。

⑧大口の香取神社

祭神は経津主命^{ふつぬしのみこと}ほか4柱で、創建年代は不詳ですが、慶長2年(1597)に再興されたと伝えられています。元荒川の左岸に位置する川通地区は、香取神社の祭祀圏でした。秋の例祭は毎年10月9日(おくんち)に行われ、宵宮^{よいみや}には参道の両側に絵灯笼が並びます。参道には塚に籠って入定したとされる光明院の修験僧慶伝を祀る、寛政元年(1789)銘の祠があります。



⑨大野島水管橋

歩道橋を兼ねる水管橋が元荒川を跨いだのは昭和52年(1977)のこと、県の給水連絡管が橋の両側面を走っています。橋上からは大野島地区の彼方に金山堤を望み、秋に槻の森文化公園の紅葉が川面を染めて、壮大な眺めが楽しめます。

